

県士会 ニュース

No.
203
[2020.6]

Contents

TOPIC

- 2 公益法人格取得への道 新型コロナウイルスで奪われた生活行為～作業療法（公益目的事業）の力で市民の日常をリカバリーしよう～
- 1 巻頭言
- 2 神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会からのお知らせ
- 3 各部からの報告
- 5 連載コラム ちょっと一杯どうですか？
- 6 理事会議事録
- 7 新入職の方へ県士会への入会をおすすめください！
- 7 事務局からのお願い
- 7 編集後記

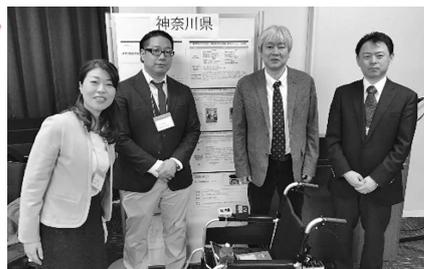
Kanagawa Association of Occupational Therapists
— KAOT —

巻頭言

神奈川県発「本当に必要でリアルな」 介護ロボットの提案

制度対策部 福祉用具対策事業班 班長
2019年度介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会全国設置・運営業務

神奈川県協議会 沼田 一恵



前年度に続き一般社団法人日本作業療法士協会は厚生労働省の委託を受け、2019年度の介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会全国設置・運営業務を実施した。その最終報告が先日まとめられ公開された。本事業は全国規模で各都道府県作業療法士会に再委託され、神奈川県にも協議会が発足した。この事業は「介護現場の課題（ニーズ）」を調べ、ロボットで解決する場合に「どのような技術で対応すべきか（シーズ）」の検討から必要なロボットを提案するものである。ご存じの通り高齢者の自立支援及び介護には介護現場の限られたマンパワーの有効活用対策としてロボットやセンサーの活用が期待されている。これにはニーズとシーズのマッチングが重要である。本当に必要とされ、実現できるリアルなロボットとは何かを明らかにするため、本事業ではその橋渡し役として作業療法士の力が活用された形である。本事業での提案は最終的に企業等のロボット事業化を促すものとなる。

神奈川県協議会は老人保健施設2施設のヒアリングから朝食の時間帯で介護職員が少なく、居室から食堂までの車いす移送が負担になっていることに着目した。居室から食堂まで自動的に移動できる「車いす送迎ロボット」があればこれを解決できるものと予測し、シーズによって実現可能を検討した。神奈川県協議会のプロジェクトコーディネーターである千葉工業大学・高橋芳弘准教授の協力で、手動型車いすの大車輪に後付け可能な外部動力装置と、ライトレースの技術（施設の床に市販の有色テープを貼付するとそれをたどって自動走行できる技術）とで解決できることとなった。実際に試作機が製作され、協議会メンバーを乗せての自動走行の検証も行われた。同時に介助による移送と自動移送した場合の比較計測も実施され、負担軽減が十分可能であることを示すこともできた。

またこの事業では「学生協議会」も組織された。神奈川県を中心とした北里大学、東京医療学院大学、神奈川工科大学、女子美術大学の学生ら総勢18名も9名ずつ2チームを作りロボットを提案した。そのひとつは人と人をつなげるコミュニケーションソフト“WAtoEN”（わとえん）である。これは特別養護老人ホーム等の見学から要介護状態で施設入所すると人との関係性が希薄になってしまう点を課題としたもので、アプリ端末により「同じ趣味や共感をしあえる仲間」の発見を支援するシステムである。使用者が自身の興味などを入力することでそこに見合う人たちが集うイベントなどが照会できるコンセプトである。もうひとつは薬の飲み忘れを支援するロボット“MEDICAT”である。見た目はネコのキャラクターの形態でなじみやすいがiphoneを装着しAI機能を生かす制御機構として活用できるようになっている。こちらはネコ型キャラクター

のモックアップまで製作された。この学生協議会には神奈川県会員もアドバイザーとして参加し学生らを指導した。最終報告によれば学生らは介護現場の実際や介護ロボット需要などを肌で感じることができたようである。また互いに違う分野で学ぶ者同士でも、1つのチームになること、互いの考え方やスタンスの違いを認め合うことでポジティブなアイデアの創出ができたようである。きっと彼らの今後にも良い経験になったに違いない。

以上のように神奈川県の作業療法士と学生らにより「本当に必要でリアルな」介護ロボット提案がなされた。今後これらの提案が企業等に届き、最終的に技術が介護現場で活用されることで介護を受ける側も実施する側も幸せとなる日が来ることを願う。ニーズとシーズを「つなぐ」力が作業療法士にはある。これからも作業療法士はその視点を持つことが求められている。

末筆に本事業に関わった神奈川県作業療法士会会員及び協力者を示す（※敬称略）。

【介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会全国設置・ 運営業務 2019年度 神奈川県協議会 関係者】

- ・委員長名：錠内広之
 - ・プロジェクトコーディネーター：
ニーズ側：吉井智晴（PT）、シーズ側：高橋芳弘（エンジニア）
 - ・事務局：秋本拓哉
 - ・ニーズ側メンバー：沼田一恵、神田崇央、加藤結花里
 - ・シーズ側メンバー：川辺均、出口弦舞
- ≪学生協議会≫
- ・委員長：佐藤隼、高吉亮平 ・学生指導：高橋 香代子

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会からのお知らせ

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会 木村 修介

一社) 神奈川県作業療法士会に新入会された方々に神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会についてご紹介いたします。

神奈川県における訪問リハビリテーション(以下「訪問リハ」)に係わる活動は、(公社) 神奈川県理学療法士会、一社) 神奈川県作業療法士会、神奈川県言語聴覚士会が協働して主に研修会の企画運営を行ってまいりました。

地域包括ケアシステムの構築が急務となっている昨今、訪問リハ従事者の育成のみならず訪問リハ従事者のネットワーク構築、更には関係機関との連携が必須となっております。

神奈川県民が住み慣れた地域において健康で自立した日常生活を営むため、訪問リハが質と量において社会的ニーズを満たし、高い成果を発揮するサービスに発展すること(旧神奈川県訪問リハビリテーション協議会 規約より)を目的とし、2014年(H26年)4月1日『神奈川県訪問リハビリテーション協議会』を設立いたしました。

さらに機能拡充に伴い2015年(H27年)4月7日から『神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会』に名称を変更。

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会は「訪問リハの①サービスの量 日本一②サービスの質 日本一③顧客満足度 日本一」を目指します!!を合言葉に毎年以下の活動を実施しております。

1) 研修会活動

- i) 神奈川県訪問リハビリテーション初任者研修会

- ii) 神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会
- 2) 学術活動
 - i) 神奈川県訪問リハビリテーション学術集会
- 3) 地域活動の推進
 - i) 各連絡会(訪問リハに関連する)への活動助成
 - ii) 各連絡会の情報交換
- 4) 行政や関連職種の地域リハに関する窓口機能
- 5) 地域リハに関する情報発信

各団体(OT士会、PT士会、ST士会)から推薦を受けた運営委員が中心となり、上記の活動を実施しており、その任期は二年となっております。ちょうど今年度は新体制で臨む年度であり各団体からの推薦が届き次第、役員体制を発表いたします。

運営委員以外にも活動にご協力いただいているOT、PT、STがいます。主に上記活動の企画、運営に携わっていただきます。訪問リハ、地域リハにご興味がある方は是非活動にご協力いただければと思います。

今年度は新型コロナウイルスの影響で活動自粛せざるを得ない状況となっております。上記活動の実施の判断については下記ウェブサイトを適宜更新してまいりますので、ご確認をお願いいたします。

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会についての質問は下記URLからお問い合わせください。

<https://kanagawa-houmon.jimdofree.com/>

公益法人格取得への道

新型コロナウイルスで奪われた生活行為

～作業療法(公益目的事業)の力で市民の日常をリカバリーしよう～

公益法人化対策委員会 澤口 勇

4月7日、新型コロナウイルス対応の特別措置法に基づく緊急事態宣言が政府により発出されました。感染の収束に向け、人と人との接触機会をさらに制限する内容となっておりますが、外出自粛要請による人の移動制限の効果は3割に留まっているなどの見解を受け、11日安倍首相は新型コロナウイルスによる感染のさらなる防止拡大の観点から7都道府県の全企業に「出勤者7割減」の要請も出しました。また繁華街の接客を伴う飲食店などの利用自粛要請についても、7都道府県だけでなく、全国に広げること決めました。本号の原稿は2020年4月12日に書いておりますが、少しでも収束に向かうことを願っております。

人は「働く」という作業活動が制限された時、何をしよう。海外では窓越しに歌を歌う方がいました。中には「コロナウイルス」のことを作詞作曲して、YouTubeで配信する方も。日本では、スポーツ選手がやはりYouTubeで特技を披露したり、学校が休校で家の中にお子様のために、子どもでも簡単にできそうな体操を紹介したり、芸能人の方も「手洗いの仕方」を配信したり。これを作業療法的に言えば、私見ですが、失われた生活行為はさらに別の生活行為で代償されると思います。人にはやはり「作業」が必要です。

当委員会で検討している「公益目的事業」は、高齢者に限らず、全ての人と地域、全てのライフ・ステージを対象に、あらゆる作業療法を通して県内全地域の市民の健康と日常生活を支える裏方になることを目標としています。

実は神奈川県作業療法士会もコロナウイルス感染拡大防止の外出自粛要請に鑑み、対面での会議もままならず、本号ではこれ以上の見解を載せられず残念です。今後は時期や内容もまだ、未定なのですが、当委員会が主催者となり積極的に公益目的事業を打ち出す計画があります。内容や詳細が決まりましたら追ってご案内致します。ぜひご参加下さい。

コロナウイルス感染の収束の気配が見えません。外出を自粛し家の中で過ごす市民は「作業」を求めています。ぜひ作業療法士個人の方で、例えばですが「気晴らし体操」「集中力・認知力UP体操」とか動画をアップする方が現れても良いのではないかと個人的には思っております。「地域に密着した作業療法を一人一人の作業療法士が実行する」のは今かもかもしれません。これこそまさに公益活動です。YouTubeが得意な会員の方いませんか。職場の仲間と協同でも良いかもかもしれません。ぜひ、トライしてみてくださいはいかがでしょうか!

各部からの報告

教育部 **連載**「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」 県士会ウェブサイトから質問ができます！

ご不明の点はどんなことでもご連絡ください。
(文責：教育部 奥原 孝幸 (神奈川県立保健福祉大学) 046-828-2738 (直)、okuhara-sp8@kuhs.ac.jp)

このコーナーは、県士会教育部関連の情報をご案内していきます。教育部はOT協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。情報は、県士会ウェブサイト、協会ホームページを頻繁に確認したり、県士会ニュース、協会誌をしっかりと確認してください。

●新型コロナウイルスの影響による事業変更に関して

まず、昨年度事業を延期していました現職者共通研修「事例検討」・「事例報告」（事例報告会、2月24日分）、臨床実習指導者講習会（3月20日～21日分）の開催に関しましてはたいへんお待たせしておりますが、予定が立たない状況です。コロナの状況推移を判断して参加者にはご連絡いたします。連絡が取れない方もいるため、県士会ウェブサイトにも情報を掲載します。

次に、OT協会誌、ホームページにてお知らせされていますが、4月からの協会の生涯教育システムの移行、公開予定が延期されています。それに伴い4月に開始を予定していました手帳移行等についても延期されます。延期後の新システム公開日程等については、現在調整中で、決まり次第協会ホームページや協会誌にて案内されます。

また、協会事務局も状況によってはこのニュースが届く頃も事務局員が在宅勤務となっているかも知れません。お問い合わせの際には協会ホームページをご確認ください。

●生涯教育システムの移行に伴う県士会での手続きに関して

県士会での手続きは、以下に示す手続き要領にて県士会事務局へ送付ください（従来の手続きとは異なり簡略化します）。県士会ウェブサイトにある申請書、協会会

員証は不要です。なお、県士会事務局員、教育部員の勤務状況によっては、時間を要することがありますので、ご承知おきください。

①研修会等の参加証明書をポイントにする押印

参加証明書等をお持ちの方は、参加証明書とその内容を記載した生涯教育手帳内の生涯教育受講記録

②県士会の役員や部員等の県士会裁量ポイントの押印

公文書（県士会発行の委嘱状）と生涯教育手帳内の生涯教育受講記録

③現職者共通研修、現職者選択研修が終了している方の修了確認印の押印

それぞれの受講が規定通り修了している場合には、生涯教育手帳内の生涯教育受講記録

送付要領：上記書類と返信用封筒（切手貼付、宛て名明記）を同封の上、以下宛送付ください。

なお、受講記録の表紙に県士会名、協会会員番号、氏名を明記ください。

送付先：

〒231-0011 横浜市中区太田町4-45
第一国際ビル301
一般社団法人神奈川県作業療法士会
教育部 手帳移行手続きの係

●今年度の教育部主催の研修会に関して

OT協会の生涯教育制度の現職者共通研修、現職者選択研修、臨床実習指導者講習会、事例報告登録制度に関する研修会等の開催を予定しています。今後状況を見ながら計画し、県士会ニュース、ウェブサイトに掲載します。県士会ニュースは募集や変更等のタイミングが合わないことがあるため県士会ウェブサイトのチェックをお願いします。

地域リハビリテーション部 **新年度あいさつ**

(文責：遠藤 陵晃)

新年度がスタートしました。昨年度も多くの方々にご協力頂きましてありがとうございました。また、新型コロナウイルスの影響により3月の研修会が中止となってしまったこと、心からお詫び申し上げます。地域リハビリテーション部では今年度も各領域での地域で働ける、従事してヒントになる研修会を行っています。地域支援事業や地域ケア会議、介護予防についての研修として地域リハビリテーション人材育成研修会。パーキンソン病やALSなど在宅でも病院でも使える知識、技術を行っている難病リハビリテーション講習会。誰でもが地域での小児や発

達障害に対することを考える特別支援教育研修会。精神保健福祉士会と共同し、行っている多職種精神保健福祉セミナー等多くの研修会を企画しております。研修会のお知らせは、研修会案内、チラシ、県士会ホームページ内の地域リハNewsをご覧ください。

いつもとは様子の違う新年度の始まりで地域との関わり方もそれぞれ試行錯誤が必要ですが、皆さんで作業療法士、地域リハビリテーションを盛り上げていきましょう。今年度もよろしく願い申し上げます。

ウェブサイト管理委員会 県士会サイトが更に見やすくなりました！

(文責：ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

県士会サイトに PDF Viewer を新規導入致しました！！

今年度は県士会ニュースの送付が年3回に変更となり、紙面が手元に届く頻度が減少します。そこで、県士会サイトでは通勤時やちょっとした合間にも県士会ニュースを愛読いただけるように、スマートフォンにも対応したPDF Viewer を搭載しました。スワイプ操作で簡単にページをめくれるため、スムーズな動作を是非一度体験してみてください。

また、県士会サイトは今年で16年目を迎えます。2005年4月にインターネットと作業療法をつなぐ目的で誕生し、県士会サイトでは「みて役立つ！すぐ役立つ！まずはクリック！県士会サイト」のキャッチフレーズのもと、求人情報、研修会情報のみならず、臨床に役立つ内容やブログ、作業療法の魅力、県士会がわかる、作業療法あるある等の豊富なコンテンツを取り揃えております。

県士会サイトではメールやSNSの登録で皆様にいち早く県士会情報を発信できるように対応しています。新規会員の皆様、是非この機会にメールやSNSを登録して、つい見逃してしまいがちな情報の取得、そして神奈川県作業療法士会の魅力を肌で感じてみませんか？現会員の皆様も登録がまだであれば、是非ご活用下さい。

更新情報を確認する方法	電子メール (メールマガジン) Kanaからの手紙	Twitter	Facebook
県士会サイトの更新	○	○	○
県士会ブログの更新	×	○	○
リハビリテーション関連ニュース	×	○	○

学術部研究助成班 2020年度の研究助成事業の要項変更について (文責：学術部 佐々木秀一)

神奈川県作業療法士会の研究助成事業では、毎年2研究課題に対してそれぞれ最大20万円の助成金を出しています。この事業の目的は、神奈川県作業療法士会の発展に寄与する研究・実践についての知見を多くの会員間で広く共有することであり、最終的には論文投稿するまでを目標としています。2018年度から若手を含めた様々な神奈川県士会会員からの研究活動を活発化させるため、応募要項のうち研究代表者及び研究組織の要件を一部緩和しました(下記の図を参照)。2019年度は、研究Ⅰが1名、研究Ⅱが2名の合計3名に支給者されました。

2020年度における研究課題の公募期間は5月1日から7月31日までです。興味のある方は、県士会ホームページで研究助成事業概要及び必要書類を確認して下さい。研究となると敷居が高く感じられますが、チャレ

ンジしたいと考えている方に対して、学術部が相談に乗ることも可能です。質問や相談したことがある方は、学術部研究助成事業班 kana-zyosei@kana-ot.jp まで気軽にメールして下さい。

【研究代表者及び研究組織】

- (研究Ⅰ) 研究代表者は全神奈川県士会会員。
研究組織は2法人以上(研究分担者は神奈川県士会会員を1名含む)。
- (研究Ⅱ) 研究代表者は免許取得7年目以下。研究組織は1法人以上。



研究助成事業一覧表 (2010年度～2019年度)

年度	研究テーマ	研究者	所属
2010 平成22年	作業選択意思決定支援ソフト「ADOC」の内容妥当性の検討	長山 洋史	北里大学
	神奈川県小学校特別支援教育の作業療法の有効性に関する研究	渡邊 夏子	神奈川県立こども医療センター
2011 平成23年	身体障害作業療法における実態調査	友利 幸之助	神奈川県立保健福祉大学
	重症心身障害児施設の入所者に対する作業療法の介入に関する研究	杉山 いずみ	小さき花の苑
2012 平成24年	ALS患者の自立支援用具、生活の工夫状況調査と生活ガイドブック作成の試み	磯 朋代	北里大学東病院
	単身生活可否の判断について—作業療法士の研究に基づくチェックリストの作成	福嶋 祐子	汐田総合病院
2013 平成25年	神奈川県小学校特別支援学級に対する作業療法の介入方法に関する研究	笹田 哲	神奈川県立保健福祉大学
	作業に焦点を当てた実践が長期入院統合失調症者の精神症状やQOLに及ぼす効果の検証	松岡 太一	福井記念病院
2014 平成26年	精神領域に携わる作業療法士の研修会ニーズと参加に関する研究	水野 健	神奈川県立保健福祉大学
	整理整頓、学用品の操作が困難な子どもの作業療法支援に関する研究	山本 浩輝	なのはな苑
2015 平成27年	意味のある作業への参加促す作業療法の治療戦略に関する研究	赤塚 花実	新横浜リハビリテーション病院
2016 平成28年	脳卒中患者における手指機能のテーピングの効果	林 慎也	イムス横浜狩場脳神経外科病院
2017 平成29年	急性期および回復期脳卒中患者の麻痺側上肢機能と日常生活上の上肢使用量の関連性	佐々木 秀一	北里大学東病院
2018 平成30年	作業療法学生に対するクリニカルリーズニング評価の予備尺度の開発	丸山 梓	湘南慶育病院
	作業療法が心疾患術後患者におけるせん妄および心身機能に及ぼす影響：縦断的分析による検討	佐野 邦典	横浜市立大学付属市民総合医療センター
2019 令和元年	精神科スーパー救急病棟における作業療法実践の現状と課題	佐藤 範明	昭和大学付属烏山病院
	脳卒中重度麻痺患者に対する上肢機能アプローチの方略の解明	萩原 祐	湘南慶育病院
2019 令和元年	精神障害領域における作業機能障害の評価に基づく支援の効果検証-多施設間事例集積研究	松岡 太一	福井記念病院
	重度心身障がい児の視線入力装置による意思表出の評価とその効果について	加藤 実帆子	川崎市中央療育センター
2019 令和元年	神経膠芽腫患者に対する Occupation Based Practice の実践が、健康関連 QOL に与える効果の検討	黒崎 空	北里大学病院

ちょっと一杯 どうですか？

No. 14 「『生きる価値』を伝える」



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『〇〇先生』と呼ばれている。

私の務める病院には沢山の看護師さんがいる。病棟だけでなく、診察室や処置室、検査室に手術室。そしてリハ室にも。最近では男性も多く頼もしい。色々な患者さんに対応する姿は我々も見習うことがとても多い。患者さんと話している彼らの寄り添う姿は一種独特な安心感を兼ねている。医療に携わる人なら誰でも同じ気持ちや似たような想いを持っているに違いない。だからこそ、他の職種を見て自身を振り返る作業はとても重要である。それぞれの専門的立場はある。でもその立場や立ち位置は患者にとって有益でなければならない。だけど人が患者（対象者であり他人である存在の人）の気持ちに本当の共感を持てるようになるまでには、相当の経験や努力が必要となると思う。だから所々に自分を引き合いに出してしまうので、時々軸がずればじめる。そのようなズレも専門性あるいは専門的であるが故の悪い側面が出てしまう事実もある。

遠い昔のこと。生死を彷徨う出来事が私を襲ったことがあった。朝目覚めて立とうとするとフワフワして立てない。酷い眩暈。いくら眼を擦っても全てが二重に見えるばかり。冷静に“病院に行く”と妻に伝えた。あちこちの病院に行ったけど、結局自分の病院に紹介された。その時ホッとしたのが気を失った。気が付いたときはベッドの上で、しっかりと点滴やらなにやらがつながっていた。『〇〇先生、今日担当する△△です。よろしくお願ひいたします』と受け持ちナースが挨拶してくれた。“そうか、入院したんだ”と気が付く。テキパキと動く看護師さんをベッドに横になって観察するのも勉強になる。やがて医者が来て『しばらく入院加療が必要になります。原因はまだ分かりませんが』と不安な言葉を残して去って行った後も、看護師さんはいつも通り忙しそうに部屋に来て点滴の滴下を調整しながら私に話しかけてくれる。『〇〇先生は、お子さんいるんですか？』安心感は絶大である。すっかり立場が患者となった自分も少しずつだが回復してきた時、『〇〇先生、時間ありますか？』と聞かれたので、当然入院中の私は“あり過ぎます”と答えた。何やら、担当している患者さんの病態のことや、卒後教育担当で呼吸療法を教えないといけないんだけどどんな話をしたらいいのか、末梢神経と中枢神経の評価方法やコツ・ヒントを教えてください…などなど沢山の質問が飛び交った。時には交際相手の話や上司や同僚の話なども多い相談内容だった。病棟看護師さん以外に

も、この時とばかりに多くの病院職員がひっきりなしに遊びに来てくれるようになったので、昼間の時間が瞬間に過ぎ、病室がチョットした相談室となってきた。でも、夜になると過去の自分やこれからの自分を考え、家族や仲間のことをつい考えてしまう。『もうちょっと遅かったら植物状態か、死んじゃってましたよ』と医師に言われた夜は、無意識に自分自身の気持ちの整理をしたり、“生かされた自分”に対しての価値観や使命感などとも向き合ったりしたことを思い出す。大変貴重な時間を思いがけず過ごした自分に退院の話が舞い込んできた時、すっかり弱体化してしまった私はリハビリを兼ね、感謝の気持ちを込めて病棟に置いてある車椅子の23台全部をピカピカに磨き、タイヤの空気を全部入れ、油を刺して動きを良くし、ブレーキが利きやすいように修理した。

医学の発展により私は、『生きる時間』を与えられた一人かもしれない。そして、作業療法士としても、目の前にいる対象者の『生きる時間』を大切に想い、病気や怪我に向き合う勇気や役割を専門的に伝える特別な役割を更にもっと与え授かったと感じている一人かもしれない。作業療法士としてはまだまだ未熟者。でも、我々が対象者とする患者さんや施設利用者さんに対し、一番大切に思うこと…それは『生きる価値』を本人たちに伝える心の籠った言葉や表情だと思う。『生きる時間』を授けられた作業療法士が対象者に伝える『生きる価値』は、対象者に響く言葉や表情が随所が変わってくるかと思う。専ら、作業療法士の主たる作業活動には、この『生きる価値』を伝える要素がふんだんに含まれている。実のところ、どんな立場の作業療法士であろうがなかろうが、この『生きる価値』の合言葉により多くの職種との出会いがあり、連携が持ちやすいなどのある種独特の特徴が存在するのも、作業療法士ならではのなにかかもしれませんよ。

思いもよらぬ出来事に遭遇し、病気や怪我を負ってしまった患者さんたちに対して、皆さんはどのような言葉や表情、そして価値観をお持ちでしょうか？是非とも共有してみたいですね。このコラムを皆さんが目にするとき、新規に入職される方々も見てくれているのかなあ。作業療法士って本当に楽しいですよ。

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。
(文責：ペンネーム おじちゃん)

理事会議事録

★ 2019年度12月19日 理事会議事録

1. 日時：2019年12月19日（木）19：00～21：38
2. 場所：神奈川県作業療法士会事務局
3. 参加理事：錠内、木村、金山、吉本、佐々木、奥原、神保、遠藤、野本、神田、佐藤範、戸塚、澤口、佐藤良、西川、大郷（16名）
欠席理事：野々垣、玖島（2名）
出席監事：田中・鶴見（2名）
4. 審議事項
 - (1) 三役
 - 1) 組織改編について
理事の横断的な関わりを増やすことが目的。2020年度の総会までに暫定組織図の検討を行い、2023年度に新しい組織図を検討していく予定。
 - (2) 事務局
 - 1) 交通事故被害者支援神奈川県講習会後援 2020年4月18日（土）・11月4日
 - 2) 休会希望者 7名 ⇒承認
 - 3) 茅ヶ崎市地域ケア個別会議 助言者派遣 遠藤毅氏（茅ヶ崎新北陵病院）遠藤陵晃氏（横浜 YMCA 学院専門学校）
 - 4) 介護ロボット神奈川フォーラム（12月13日）にて錠内会長講演
 - (3) 学術部
 - 1) OBP2.0 と CAOD の実践について～作業に根ざした実践理論と作業機能障害の種類と評価～ 寺岡睦氏（作業療法士・吉備国際大学）
 - 2) 統合失調症薬物治療ガイドラインを学び心理社会的介入に活かす 橋本亮太氏（医師・国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）
 - 3) 作業療法士ができる身体障害者へのハンドリング 坂本安令氏（作業療法士・横浜市立大学附属市民総合医療センター）
 - (4) 教育部
 - 1) OT 協会教育部生涯教育委員会生涯教育制度推進班会議報告 会員システムへの移行に関して手帳やポイントシールがなくなる。それに伴い、協会・士会主催の全ての研修会でのバーコード入力が完全実施となる。
 - (5) 広報部
 - 1) 部員の承認 矢野智恵美氏（えびな脳神経外科病院）⇒承認
 - (6) 地域リハビリテーション部
 - 1) 介護予防普及展開事業アドバイザー
1月17日に市町村の報告会の予定。遠藤理事がアドバイザーとして参加予定。
 - 2) 藤沢市地域ケア会議のリハ専門職派遣、参加依頼各地区2回終了済。今後も各地区1回実施予定。
 - (7) 制度対策部
 - 1) 台風19号被災会員に対する会費減免などの対応の検討について 現時点で当士会には規定がない。案を作成し、継続審議となる。
 - 2) OT 協会生活行為工夫モデル事業について さらなる協力をお願いしたい。
 - 3) 自動車運転班 ブログを開始した。
 - (8) 規約委委員会

- 1) 会員規程について 賛助会員を増加させていく必要がある。そのため、賛助会員の特典について意見交換を実施した。1月の理事会で継続審議。会費も再検討する。
- 2) 所在不明会員について 現在の定款・規程の中では連絡が取れない会員を退会させるための文言が入っていない。専門家に相談する。
- 3) 個人情報保護規程 当会の規程は改定に対応したものになっていない。司法書士に依頼することとなった。
- (9) 学会評議委員会
 - 1) 第18回神奈川県作業療法学会 大会長の選出を再調整中。
- (10) 公益法人化対策委員会
 - 1) 公益事業の提案
助成金をもらって運営するモデルとなるよう企画を検討。助成金申請に関するルールがないため、意見交換を行った。⇒企画案を再検討。助成金の申請先候補が決まったら理事会でシェアする。
- (11) 地域包括ケアシステム推進委員会
 - 1) 2019 地域包括ケア OT 特別セミナー～地域に飛び出せ作業療法士たち！～12月1日（日）講師；鎌田大啓氏（株式会社 TRAPE）、大郷和成氏（遊びリパーク lino' a）にて開催。 以上、文責 金山

★ 2019年度1月23日 理事会議事録

1. 日時：2020年1月23日（木）19：01～21：28
2. 場所：神奈川県作業療法士会事務局
3. 参加理事：錠内、野々垣、木村、金山、吉本、佐々木、奥原、神保、玖島、遠藤、野本、神田、佐藤範、戸塚、澤口、佐藤良、西川、大郷（18名）
出席監事：田中（1名）
欠席理事：鶴見（1名）
4. 審議事項
 - (1) 三役
 - 1) 組織改編について
組織改編については共通認識になったと思う。2020年度は担当を決めるのではなく自主的にコラボ活動をしていき、2021年度から新体制で取り組みたい。
 - (2) 事務局
 - 1) 後援依頼 建築士会「専門職連携 住宅改修ワークショップ」2020年3月14日 地球市民かながわプラザ⇒承認
 - 2) 神奈川県 介護予防研修会 OT 士会代表として吉本理事・西川理事参加
 - 3) 鎌倉市事業 2010年2月17日 湘南鎌倉総合病院 菅野氏派遣予定
 - 4) 株) かながわ SWC 神奈川県委託事 2020年2月20日 開成町保健センターまたは役場会議室→遠藤理事対応中
 - (3) 学術部
 - 1) 部員の承認（学術誌査読委員）丸山 祥氏（湘南慶育病院）⇒承認
 - 2) 研修会費の払い込み方法の再考について 現在、研修会は当日に研修会費を徴収することになっている。キャンセル待ちを断っているのに当日のキャンセルが出てしまうのは会員にとって不利益ともいえる。⇒注意喚起から始める。
 - (4) 広報部

- 1) ニュース班より ニュース郵送時期について 予算の関係で年3紙面で送付、年3回PDFでデジタル配信またはHP閲覧とすることが決まった。4・8・12月号紙面、6・10・2月号ウェブ。
- (5) 福利部
 - 1) 2020年度県士会表彰者の選考 功労表彰10名を決定。今後は人数等も再検討が必要か。
 - 2) 学術・福利合同 新入オリエンテーションについて 2020年6月21日開催予定。
- (6) 地域リハビリテーション部
 - 1) 介護予防普及展開事業アドバイザー 2020年1月17日に市町村の報告会の予定。遠藤理事がアドバイザーとして参加予定。OT士会から3名程度参加予定。
- (7) 制度対策部
 - 1) 大規模災害時理事会行動マニュアルについて 大規模災害後の県士会運営のフローを検討した。理事の安否確認のルールと災害後対応可能な理事が躊躇なく諸々を決定できる仕組みや理事自身の職場や家庭を優先できるように案を作成した。⇒3月の理事会で再検討。
 - 2) 環境スキル研修(5回目)実施 2019年12月7日(土) OT参加者4名(定員5名)
 - 3) OT協会生活行為工夫モデル事業連絡会議 2019年12月21日(土) 山崎あゆみ氏出席
- (8) 規約委員会
 - 1) 個人情報保護規程 司法書士みかど事務所に依頼中。
- (9) 公益法人化対策委員会
 - 1) 公益事業 映画上映を検討中。 以上、文責 金山

新入職の方へ 県士会への入会を おすすめ ください!

当会は研修会だけでなく、神奈川県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として活動しています。神奈川県をよりよくするため、一緒に活動する仲間を増やしていきましょう!!

入会 案内

当会HP (<https://kana-ot.jp/>)「入会手続き」から入会申込書をダウンロードしてお申込みください。事務局

事務局からのお願い

● 届出内容を変更される方 ●

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『変更届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。(随時受付)

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式ウェブサイトのINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落しとなり、返金を致しかねます。

編集 後記

新型コロナウイルスの影響でオリンピックが一年延期になりましたね。オリンピックを楽しみにしていたので、残念です。しかし、選手も観客の皆さんも主催者も全ての人が思いっきりできる時がいいですね。
"Tokyo オリンピック 2021" (H.Y)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (203号) 2020年6月発行(年3回発行)

発行責任者 錠内 広之
 編集責任者 神保 武則
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
 山岡 光(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(新戸塚病院) / 安田 優子(横浜旭中央総合病院)
 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院) / 松井 洋鷹(浏野辺総合病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号
 TEL/FAX: 045-663-5997
 月火水木金 10:00~15:00
 メールアドレス: jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川県 検索
 Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
 Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

